

基本方針1 市民の生涯学習を支える図書館

(1) 貸出し・閲覧サービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価		今後の方向性
ア 幅広い分野の資料をバランスよく揃え、魅力ある書架を構成し、貸出し・閲覧サービスを行います。 イ 利用者の求める資料を探しやすいように配架し、読書を楽しめる十分な閲覧スペースを設けます。 ウ 未返却資料がある利用者には、貸出しの制限を行い、利用の公平性を保ちます。 エ 市内に活動拠点を置く団体やグループが、より多くの資料を活用できるよう団体貸出を行います。	・所蔵資料数（図書、雑誌、視聴覚資料、マイクロフィルム） ・貸出数（図書（雑誌含む）、視聴覚資料） ・電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧貸出数）	・所蔵資料数 図書1,572,175冊 雑誌1,392タイトル 視聴覚資料66,797点 マイクロフィルム4,000点 ・貸出数 図書・雑誌1,639,619冊 視聴覚資料135,377点 ・電子書籍 タイトル数11,933点 ログイン数25,318回 閲覧貸出数34,011点	B	・魅力ある書架を構成するために不用となった資料（情報が古くなったものや状態の悪いものなど）を整理し、利用者のニーズを考慮しつつ、資料の充実を図った。 ・電子図書館に子ども向けの読み放題コンテンツを購入し、さらなる利用拡大を図った。	継続 ・幅広い世代の多様な興味や関心、課題解決に役立つ資料の充実を図り、引き続き、利用者のニーズを考慮しながら、紙媒体と電子媒体のバランスを考え、蔵書を構築していく。 ・学校でも利用しやすい電子コンテンツの拡充を検討する。

委員の意見等
貸出し・閲覧サービスを支えるのは、豊富な情報と居心地の良い空間、そして利用者サービスを支える職員の存在である。府中市立図書館はこれらが揃っており、評価したい。 蔵書については、これまでの積み重ねも含め、豊富な資料群を収集し提供している。令和5年度も寄贈資料を含めると30,000冊近い資料が新たに加わった。新鮮な資料の補充は、利用の活性化を促すことにつながる。それを可能にするのは資料費の確保である。毎年減少傾向にあるが、資料費の充実に努めてもらいたい。 非来館型サービスとして電子書籍の提供も始まり、ログイン数も増えている。電子書籍の特性（音声読み上げなど）を活かし、今後も充実に努めてもらいたい。また、利用方法を高齢者や子どもにも周知する必要がある。なお、電子書籍の費用対効果については、常に意識してもらいたい。 除籍処理については、「府中市立図書館資料保存基準」及び「府中市立図書館図書資料等除籍要綱」に則り、適切に行われている。 図書のリサイクルについて、地区図書館の分も含めて一カ所に集めて、リサイクルを行うことでより効果的なリサイクルができるのではないかと。市民への配布は望ましいことではあるが、地区毎に配布すると遠方の市民が目にすることもなく消えていく図書もある。時期や場所を変えて不用図書の全体が見渡せる状態で配布がなされれば、市民サービスの好機会となり、市民の目を図書館に向けさせる契機になる。

基本方針1 市民の生涯学習を支える図書館

(2) 予約・リクエストサービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価		今後の方向性
ア カウンターや電話での予約に加え、OPAC（オンライン蔵書目録検索システム）やインターネットからの資料の予約など、利用者のニーズに合った予約方法を選択できるよう環境整備に努めます。 イ 利用者が望む資料について、可能な限り迅速な資料提供を行います。 ウ 所蔵していない図書や雑誌へのリクエストは、購入及び他自治体の図書館などとのネットワークを活用した相互貸借を行うことで、利用者の資料要求に応えます。 エ 視聴覚資料及び電子書籍については、利用者からの要望を参考とし、魅力ある蔵書を構築していきます。	・リクエスト受付件数（図書、雑誌、視聴覚資料） ・都内公立図書館からの借用件数 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数	・リクエスト受付件数 総数590,249件（内訳） 図書527,836件 雑誌27,814件 視聴覚資料34,599件 ・都内公立図書館からの借用件数8,257件 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数138件	B	・インターネットによる国会図書館、都外公立図書館所蔵資料の借用受付を開始し、利用者の利便性向上に努めた。	継続 ・引き続き、利用者のニーズや地域性・社会的ニーズを把握し、魅力ある資料収集を行うとともに、市民からの資料要求に関わる申請のオンライン化を推進する。 ・非来館型のサービスの一環として、遠隔複写サービスの開始に向けて調整を進める。

委員の意見等
リクエストの受付件数も回復してきている。特にインターネットからのリクエスト申込み件数が増加しており、利便性が向上している。また、他の図書館からの相互貸借も適切に行われており、利用者の情報要求に応えている。今後も他市図書館との連携の拡充に努めてもらいたい。 インターネットによる検索・予約の拡充は時代の趨勢といえるが、高齢者などのインターネット利用に慣れていない人々への配慮も必要である。 また、インターネットによる検索は特定の情報について即座に結論を得ることが出来るが、膨大な蔵書を目の前にすることで、関連する領域の深淵なる知識を発見することがある。膨大な蔵書の存在やそれを活用することの意義を多くの市民に知ってもらうためにも図書館の存在を説く機会は重要である。時代の趨勢にあわせて非来館型サービスを図ることも望ましいが、来館型と非来館型の市民は異なる存在であるとも考えることも必要である。 予約が多数入っている本は順番が早く回ってくるような工夫をしてもらいたいという要望はある。キャンセル総数が一割程度あり、その点も踏まえながら対応に努めてもらいたい。 遠隔複写サービスについての検討が始まっており評価できる部分なので、実現を目指してもらいたい。

基本方針1 市民の生涯学習を支える図書館

(3)レファレンスサービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価		今後の方向性
ア 図書館資料のほか、オンラインデータベースやインターネットを活用して的確なレファレンスを行うことによって、市民の暮らしの中での課題解決に応え、調査研究や学習を支援します。 イ 館内カウンターのほか、電話や電子メールなど、利用者のニーズに応じて幅広く窓口を設けることにより、レファレンスサービスを行います。 ウ 中央図書館は、地区図書館で受ける解決困難なレファレンスを支援します。	・相談受付件数 ・市民向けレファレンス講座の回数 ・職員向けレファレンス研修の回数	・相談受付件数5,361件、1日平均件数約16.6件 ・レファレンス講座1回実施 参加人数29人「関東大震災から100年～首都直下地震への備えについて考える～」 ・レファレンス研修5回実施	B	・職員のスキルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。	継続 ・図書館資料、データベースなどを使用して、市民からのさまざまな相談・質問に対応し、市民生活に必要な図書館の実現を図る。

委員の意見等
レファレンスサービスは、図書館だからこそ提供できる公共サービス（市民サービス）といえる。中央図書館の専用窓口や検索レスキュー等により相談件数が増加してきている点は評価したい。しかし、まだ認知不足であり、広報・PRにも力を入れてほしい。市民が主体的に学習活動をする上でも資料の探し方などで支援することが必要である。また、利用者に対してこのような有効なサービスがあることを、来館者にも非来館者にももっと広報する必要がある。その点、『図書館だより』でなされている「検索レスキュー」などは有効である。 市民向けレファレンス講座や職員向け研修会の実施は評価できるが、市民向けレファレンス講座の開催回数及び参加者数が少ない。生涯学習審議会との連携等で課題やテーマ設定をしてはどうか。図書館ならではの学習支援活動の展開ができると思う。 レファレンス事例については、国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの登録や、プライバシーに注意をしながらパスファインダーなどにして公開すると役に立つと同時にレファレンスサービスのPRにもなる。 なお、地区図書館でも相談はあると思うが、記録がない。今後の対応を望みたい。

基本方針1 市民の生涯学習を支える図書館

(4) ビジネス支援サービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価		今後の方向性
ア ビジネス関係資料コーナーを設置します。 イ 資格取得やキャリアアップのための資料及び情報を提供します。 ウ 市の産業振興部門などと連携し、産業活動や起業に関する資料及び情報を提供し、地域活性化を側面から支援します。	・ビジネス支援に関する講座の回数	・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取得し、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価は高かった。参加人数43人「よはくのある仕事」 ・情報が古い・複本など、適切な除籍を引き続き行った。	B	・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新刊図書やチラシ等を取得し、配架することができた ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からは高評価を得た。	継続 ・ビジネス関連の蔵書を充実するとともに、利用者が手に取りやすいコーナーの設置に努める。 ・講座を実施する。 ・適切な除籍を引き続き行い、展示や一般書棚の表示を見直し、しごと情報コーナーを周知する。 ・商工会議所などの関係機関と連携を図り、チラシや企業情報の充実を図る。 ・企業からの就職情報提供を幅広く求める。

委員の意見等
現役の勤労者に有効な情報を提供し、各世代のかかえる課題についてその問題解決や新たな目標設定に必要な情報が提供出来るようビジネス支援コーナーを設けて周知することは有効で、その取り組みを評価したい。ただ、コーナーがありながら、あまり目立たない。コーナーで企画展示を行うなど、目立つ工夫が必要である。 また、IT、特にAIの発展は経済・産業構造に大きな影響を及ぼしている。近時ではホワイトカラー層の労働環境の変化が指摘されてきており、地域においても自主学習を必要とする人が増えていくことになる。特に、起業を目指す人や、中小個人企業の対応も必須であり、こうした労働・経済環境への対応を明示的に支援するプログラムが必要である。 その点、ビジネス講座に43名が参加したことは評価できる。チラシ配布にとどまらず、講座も関連部署と連携しての実施や、ビジネス講座の出張開催も検討してもよい。また、起業を目指す人や中小個人企業への対応も含めて支援するプログラムが必要である。 なお、ビジネス支援の場合、資料の鮮度は大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。 また、ビジネス支援図書館推進協議会へ参加することも有効だろう。

基本方針1 市民の生涯学習を支える図書館

(5) ハンディキャップサービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価		今後の方向性
ア 図書館利用に障害のある市民にも利用しやすいよう、施設や機能を整備するとともに、きめ細やかな人的支援を行います。 イ 大活字本や点字図書、録音図書などの様々な資料を収集し提供すると同時に、全国的なネットワークを活用して利用者の幅広いニーズに応えていきます。 ウ 通常の活字による読書が困難な方へ、電子書籍などのアクセシブル な資料を提供するほか、対面朗読のサービスを行います。 エ 高齢や心身の障害など様々な理由で図書館に来ることが困難な方に、資料を郵送や宅配するサービスを行います。 オ 子どもたちが自分にあった方法で本の楽しさに出会えるように、布の絵本やさわる絵本、LLブック（写真や短い文章などを用い、読みやすく工夫されている本）などの様々な資料を収集し、「りんごの棚」として設置します。	・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌の所蔵数 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成） ・宅配貸出数（図書・雑誌・視聴覚資料） ・郵送貸出数（録音図書・点字図書） ・布の絵本、さわる絵本等の展示の回数	・蔵書数 大活字本3,626冊 点字図書701冊 録音図書923冊 布の絵本109冊 さわる絵本201冊 点字雑誌360冊 ・ボランティア活動 対面朗読302回 録音図書作成数9冊 布絵本作成数5冊 ・宅配貸出数1,860点 ・郵送貸出数1,158点 ・特集展示1回	B	・大活字本は古くなったものなどを除籍しつつ、新しく刊行されたものを継続して購入して、利用者に提供することができた。 ・録音図書や布の絵本の作成をボランティアと協働して行った。録音図書の蔵書数が減っているのは、カセットテープの録音図書で古くなったものを除籍したためである。 ・図書館利用が困難な方に対して、対面朗読、宅配業務、郵送業務を継続して実施することができた。 ・地区図書館の巡回展示を行うことで利用者の拡大に努めた。 ・特集展示として心身障害者福祉センター「きずな」で1か月間に渡り、布の絵本、さわる絵本を展示した。	継続 ・大活字本、点字図書、録音図書、布の絵本、さわる絵本、点字雑誌など様々な資料の収集を継続して行う。 ・ボランティア活動（対面朗読、録音図書作成、布絵本作成）については、対面朗読や資料の作成を継続して実施する。令和6年度には音訳ボランティアを新たに採用する予定である。 ・郵送、宅配は、継続してサービスを実行するとともに利用者拡大のための広報活動を行う。宅配はサービスの担い手であるボランティアを継続して募集する。 ・地区図書館の巡回展示や心身障害者センターでの展示を通して、利用者の拡大に努める。また、中央図書館にある大活字本の一部を地区図書館に置くことで利用者の増加を図る。

委員の意見等
ボランティア団体と協働が維持されており、本の宅配、録音資料の作成などが適切に実施されている。ハンディキャップ資料の出張展示も良い取り組みであった。他の施設でも実施できると良い。 ボランティアを養成する各種講座が好評であることは望ましい。受講対象者の希望する分野を検証し講座企画や開講回数についても拡充されることが望まれる。特に音訳ボランティアの養成に係る講座については、継続・拡充することでより一層の音訳サービスを実施できるようになる。 “りんごの棚”の設置は評価するが、地区図書館や子育て施設などにも拡大できるとよい。 ハンディキャップサービスの充実には、周辺環境の整備が必要である。読書バリアフリー推進計画の策定の検討、認知症の高齢者が安心して利用できるような認知症バリアフリーの取り組みを推進してほしい。 中央図書館でのハンディキャップサービスは充実してきているが、地区図書館での大活字本などは少ない。また、対面朗読・宅配・郵送サービスについても地区図書館や障害者団体、学校を通じてディスレクシアの生徒たちにも図書館のハンディキャップサービスを周知するなど、より一層の広報が必要である。 対面朗読をするボランティアは多いが録音図書を作るボランティアがなかなか育たない。また、対面朗読の回数は多いものの、利用している人数自体は決して多くないので、より多くの人が利用できるような仕組みが必要である。

基本方針1 市民の生涯学習を支える図書館

(6) 多文化サービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価		今後の方向性
ア 外国籍の方が自国についての情報や日本で暮らしていくための知識が母語で得られるよう、英語、中国語、ハンダールなどの資料を収集し提供します。 イ 外国籍の方に対してわかりやすい館内サインの掲示や、利用案内を行います。 ウ 日本人が外国語を学ぶために役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料を収集し提供します。	・外国語資料のタイトル数	・外国語資料13,547タイトル ・図書館資料弁償届及び弁償資料名等連絡票の案内用英訳を作成した。 ・特集展示2回 ・図書館だよりでの外国語資料紹介を行った。	B	・例年どおり、外国語資料の収集、提供を行い、外国の方の図書館利用促進を図ることができた。	継続 ・引き続き外国人だけでなく外国語を学ぶ日本人にも役立つ資料や、広く外国の言語や文化に親しむための資料収集に努める。また、外国語資料の特集展示の回数を増やし、利用促進を図る。

委員の意見等
外国語資料も増えており、「図書館だより」での紹介や2回の特集展示もよかった。また、連絡票などの案内の英訳も役に立つ。外国語の雑誌・新聞に関しても、各種取り揃え提供されており評価する。 これからの社会の趨勢として国際化と多様化があげられる。その対応としては増加する外国人のためのサービスの拡充と、私たち市民一人ひとりの国際化の試みが必要である。その二つの観点を、未来志向的観点として位置づけ、より積極的な活動を展開すべきである。また、国際化は日本社会の多様化にも繋がることから、広い意味でのユニバーサルサービスや、ジェンダーフリーを支える文献や講座の充実も期待したい。 また、外国語の資料を拡充し資料に辿り着くための表示を見易くすることを積極的に行ってもらいたい。外国語に応じられるスタッフやボランティアを活用して外国人が求める情報で容易に学習できるよう親切的な支援体制を検討することも必要である。 なお、「やさしい日本語」資料の収集と提供についても充実してもらいたい。

基本方針1 市民の生涯学習を支える図書館

(7) 学習・文化活動の支援

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価	今後の方向性	
ア 市内の大学や企業、団体と連携し、様々なテーマの講座の開催や資料の展示などを行います。 イ 市内に活動拠点を置く団体に資料の貸出しを行うことにより、団体が行う読書会や勉強会などの活動を支援します。 ウ 学習室、読書室を整備し、市民の学習環境を提供します。 エ 子どもから高齢者まで幅広い年齢に向けた読書活動を促進するとともに読書への関心が高まるような事業を展開します。	・図書館講演会の回数 ・ワークショップ、朗読会等の回数 ・企画テーマ展示の回数 ・団体貸出の団体数、貸出数 ・学習室等の利用人数	・図書館講演会4回（参加者：延べ136人） ・ワークショップ・朗読会4回実施（参加者：延べ54人） ・図書館ガイドツアー10回（参加者：延べ24人） ・図書館員体験ツアー6回（参加者：延べ53人） ・本探しのパートナー「OPAC検索案内」60回（参加者：延べ51人） ・図書館探検隊4回（参加者：延べ36人） ・企画テーマ展示93回 ・団体貸出 49団体 6,318冊貸出 ・学習室の利用人数 103,369人 ・グループ研究室の利用件数 114件 ・研究個室の利用人数 3,050人 ・新たに3階メディア通り特集棚を増設したことにより企画テーマ展示を増やし、利用者が展示資料を手に取りやすい環境整備を行った。	B ・講演会・イベントについて、コロナ禍前の通常の募集人数・回数に戻して開催できた。 ・ラグビーワールドカップに併せ、市内トップチームと連携し、特集展示を行った。 ・団体貸出について、継続して貸出を行い、読み聞かせや読書会などの支援を行った。 ・座席申込システムの導入により、オンラインで学習室などを予約できる環境が周知されたため、利用者数の増加となった。 ・白糸台コミュニティ協議会及び白糸台文化センター主催の「敬老の集い」の中で「おとなのためのおはなし会」を実施し、延べ64人の参加があった。	継続	・幅広い年齢の方が読書や図書館に関心を持てるよう、魅力ある講座や展示を開催する。 ・令和6年度は市政70周年や女子野球タウンに関連したイベントの実施について検討する。 ・座席申込システムについては利用者の声や利用状況を見ながら、予約時間枠などの運用について適宜見直しを行う。 ・団体貸出について、継続して実施していく。

委員の意見等
多彩な講演会、ワークショップ、企画展示が行われており、興味深い内容も多く評価したい。タイムリーな実施もよかった。ガイドツアーやOPAC検索案内、図書館員体験ツアーも評価できる。 府中市立図書館の特徴は、学習室を設け多くの学習席を確保している点である。長年続けてきた事業であり恩恵を受けた人も多い。静かな環境で集中して学習するために、事前に座席予約システムが利用できることは有効なサービスである。より利用しやすい状況になり、利用者も前年度の倍以上となっている。学習室の設置と同様に評価したい。 「おとなのためのおはなし会」は、市民の交流を拡大する契機として好企画なので継続して実施してほしい。図書館への関心を幅広い世代に持つもらうため、講座や展示、ガイドツアーなどの実施は有意義であり、さらなる広報や集客の工夫を望みたい。 学習・文化活動の支援は、レファレンスサービスとともに生涯学習の基盤を強化する重要な活動である。自主的学習の物理的基盤となるハードと学習のインセンティブや素材に関わるソフトの2つの観点から考える必要がある。ハードの面ではスペースが限られていることからそれほど大規模な量的拡大は難しいが、利用の利便性や高度化を支える仕掛けの部分では改善や進化の余地はあるものと考えられる。ソフト面では、講演会の回数も重要であるが、現代社会に向き合うための知識やスキルを養成するようなテーマの設定が必要である（レファレンスサービスとの連携も必要）。そのためには近隣大学や研究所との連携、当市における生涯学習審議会での方向性との共有が必要だろう。 昨今はスポーツに関する話題が多いと感じるが、スポーツ以外の話題も欲しい。市民文化・文学・社会・福祉・経済・法律・歴史などを掘り下げれば学習の分野は広大である。身近な知識を講座のテーマとすることも期待したい。世代を問わずに興味を惹かれる講座は市民としても団体としても学習する機会となる。 なお、府中市出身の作家や漫画家の展示や講演会を開催することを提案したい。

基本方針2 子どもの生きる力を育み、青少年にも魅力ある図書館

(8) 児童サービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価				
		実績	評価		今後の方向性	
ア 魅力ある絵本やよみものなどを豊富に揃え るとともに、本の配架やテーマに沿った展示を 工夫し、子どもたちが本の楽しさに出会い、自 ら考え、学ぶ力を育むことのできるサービス を提供します。 イ 読書相談や子どもたちから寄せられるレ ファレンスに対応します。 ウ 乳幼児期からの読書への働きかけが読書習 慣を形成するうえで大切なことから、豊富な乳 幼児向け資料を用意し、親子が気軽に立ち寄れ る場を提供します。 エ おはなし会や読書キャンペーンなどの行事 を定期的に行い、子どもたちへ本の楽しさや、 本との出会いの場を提供します。 オ 健全育成及び安全性などに配慮し、子ども たちが安心して利用できる環境を提供します。 カ 子育て中の親、または育児に関わる大人が 利用しやすい読書環境を整備し、子どもと一緒 に本を楽しめる場を提供します。	・児童書所蔵数 ・企画テーマ展示の 回数 ・おはなし会の回数 ・ブックトークの回 数 ・赤ちゃん絵本文庫 の回数及び登録者数 ・児童向けイベント の回数 ・おすすめ図書リス トの作成数 ・子ども読書活動推 進委員会の開催回数 ・子ども読書活動推 進委員会主催イベン トの開催数	・児童書所蔵数 359,196冊 ・企画テーマ展示 16回 ・おはなし会 中央：86回 延べ1,067人 地区：288回 延べ1,735人 ・ブックトーク 4回 延べ20人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 886人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：6回 延 べ1,127人 地区：53回 延べ4,218人 ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 5 回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベント の開催数 11回（※荒天のため12回のうち1 回中止） 延べ103人 ・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」 の策定	A	・各種イベントについて、 概ね大きな制限なく実施す ることができた。 ・地区図書館では、各施設 等のイベントと連携した事 業を展開し、参加者の増加 に寄与することができた。 ・市内関係部署と連携し、 令和6年度から令和11年度ま での6年間を計画期間とする 「第5期府中市子ども読書活 動推進計画」を策定した。	継 続	・「第5期府中市子ども読書 活動推進計画」に基づき、 引き続き読書環境を整備 し、おはなし会や読書キャ ンペーンなど、子どもと本 を結ぶための魅力ある取組 を行う。 ・地区図書館では、施設の イベントと連携した事業を 行う。

委員の意見等
児童サービスについて多彩な事業が行われている。またおはなし会は年齢にあった企画を行っている点もよい。図書館利用が少なくなり始める小 学校高学年向けの「よむよむ探検隊（ブックトーク）」なども評価できる。また「赤ちゃん絵本文庫」も子育て支援としてよい取組である。タイム リーな企画展示や講演会も評価したい。パンフレット類の作成・更新も適切であった。 子ども時代の学習経験は特に重要である。読書による効能について直接的に伝えることを重要な施策と考える。学習することの楽しさを広報し、 関心を呼ぶような図書を大きく広く展示してもよい。 現在も行われているが、地区図書館では、福祉施設や文化センター行事と連携しておはなし会などをより積極的に行ってほしい。 図書館に働くスタッフの仕事ぶりを理解してもらい、知識吸収に旺盛な子どもには、より多くの情報提供とスタッフが身近な存在であること、問題 解決への支援があることも周知せしめたい。子どもたちが自力でどこまで達成できるかは周囲の助力によるところが大きいと考えるので、学習のた めに理解のために十分な機会が提供されることを望む。 児童書は手にとってみてはじめて読みたいという意欲が湧くので、地区図書館の蔵書充実を望みたい。

基本方針2 子どもの生きる力を育み、青少年にも魅力ある図書館

(9) ヤングアダルトサービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価		今後の方向性
ア 中学生・高校生世代に、日常生活や成長過程に沿ったテーマの資料を揃え、読書への働きかけを行います。 イ 青少年世代同士の情報交換の場を設けます。	・企画テーマ展示の回数 ・青少年向けイベントの回数	・企画テーマ展示 5回 ・夏休みキャンペーン「My Favorite Things×ラグビーのまち府中～君にパス！繋げよう「お気に入り」ボール～」 延べ30人※明星中学校2年生と協働	B	・それぞれの取組を通じて、中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができた。特に夏休みキャンペーンでは、ラグビーワールドカップに併せ、市内トップチームの選手とのコラボイベントとして実施することができた。	継続 ・中学、高校生世代に役立つ資料を揃え、読書への働きかけを継続して行う。 ・青少年向けのイベントを実施し、図書館利用へとつなげる。

委員の意見等
進学や塾での勉強、また部活などで自分の興味や趣味が広がる年代であり、図書館離れが起きる世代でもある。しかし、彼らの状況を受け止め、彼らの感性にあった資料やイベントを行うことで、図書館を居心地のよい場所として捉え、利用を拡大することができる。中学生や高校生と協働した取り組みなども有効であり、当年度もそのような取り組みが行われたことを評価する。今後も中・高生で図書館のイベント企画に携わってみたい人を公募したり図書館ボランティアの体験を経験する機会を増やしてもらいたい。 なお、中・高生世代の「不読」（特に高校生は不読率5割）がよく指摘されるその一方で、よく本を読む中・高生の姿や声はあまり表に出てこない。部活をやっている受験勉強をしても本をよく読む中高生の読書術などを積極的に発信する必要がある。 （※第5期府中市子ども読書推進計画 p.51に不読率のアンケート結果あり。R5調査：小学生3%、中学生7%、高校生52%） 多感な若者世代に図書館利用の有効性を説く機会は重要である。社会に生きる知識を学ぶには自分で検索し、自分で知識に辿り着く過程が如何に重要であるかを知らせることも必要である。ネット検索で容易に結論だけを得ても蓄積されるものは限りがある。目前の直接的結論ばかりではなく、多様な情報の中から最も適当な答えはどれかを探る過程が大切であるを知ってもらうために、人と人との接触による学習は不可欠である。また、ネットで得た知識をどのように活用するかということも知るべきである。図書であれネット情報であれ、そこで得た知識をいかに活用するか、そのためには適切な指導が必要である。図書館の企画として支援が出来るイベントがあることが望ましい。 ＜協議事項＞ 中・高生を特に「ヤングアダルト」としてくくってサービスを提供する必要性や意義が今ひとつよく分からない。一般向けサービスの対象とするか、学校支援サービスと合体できないのであろうか？ ※図書館：ヤングアダルトとは、こどもと大人の中間に位置する中高生世代を中心とした若者たちを表す図書館用語で、一般的に図書館離れが進む世代と言われているため、個別に分類してサービスを充実することが考えられています。

基本方針2 子どもの生きる力を育み、青少年にも魅力ある図書館

(10) 学校支援サービス

事業内容	指標	令和 5 年度実施事業の評価			
		実績	評価		今後の方向性
ア 学校図書館にある資料で解決できない調べ学習の課題などに、資料提供やレファレンスにより支援します。 イ 学級貸出を行い、資料の支援を行います。 ウ 学校からの要請で、まちたんけんや社会科見学、中学生などの職場体験などの受入れを行います。	・学級貸出の貸出総数、1 クラス平均冊数（小・中学校） ・まちたんけん、社会科見学などの受入数 ・職場体験受入数	・学級貸出 貸出総数 12,618冊 1 クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：4.3冊 ・まちたんけん、社会科見学などの受入数 中央：2回 地区：15回 ・職場体験受入数（中央） 9校33人 ・職場体験受入数（地区） 9校38人	B	・学級貸出及びまちたんけん、社会科見学などの依頼については、例年どおり対応できた。 ・市立中学校の職場体験が再開されたことから、中央・地区図書館それぞれで受入れを行った。	継続 ・学級貸出を継続して行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちたんけんや社会科見学、職場体験等の受入れを行い、子どもたちの図書館に対する理解を深め、利用の促進に努める。

委員の意見等
学級貸出数及びクラス平均冊数も増えてきている。また、“まちたんけん” や社会科見学で職場体験の受入れも各館で行われていることを評価したい。 学校図書館と大規模な市立図書館との差は何か、正確に理解してもらうために見学の受け入れは非常に重要である。さらに生徒に説明し、学校図書室の機能と市立図書館の違いはどこか、市立図書館の特別な存在価値や利用価値のある施設であることを知らせ、活用方法や提供されるサービスについて周知する必要がある。また職場体験に来館した生徒には、問題解決の道筋探しや、「（例）図書選定の議論など」も体験させると有意義である。 学習支援の観点から教員との連携事業（例えば、調べ学習の情報共有等）や学校司書に対する研修事業へのバックアップなど学校支援強化の取り組みもほしい。 また、電子図書館についても、学校との連携を模索しながら、引き続き学校図書館を支援する重要な機能として考えてもらいたい。

基本方針3 情報化社会における市民の情報源となる図書館

(11) 視聴覚サービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価				
		実績	評価		今後の方向性	
ア 視聴覚資料は、その他の資料との関係を考慮しながら、音声・映像資料（CD、DVDなど）を収集します。 イ 映像資料の映写会の実施や視聴用機器を設置し、館内での視聴を可能にするなど、視聴覚資料ならではの様々なサービスを展開します。	・視聴覚資料の所蔵数 ・視聴席利用回数 ・企画テーマ展示の回数 ・映写会の実施回数	・視聴覚資料の所蔵数66,797点（再掲） ・視聴席利用回数7,162回 ・企画テーマ展示18回 ・映写会実施回数1回（バリアフリー上映会「アラヤシキの住人たち」：参加者19人）	B	・劣化の著しい資料を中心に、引き続き蔵書構成の見直しを進めた。 ・ナクソスミュージックライブラリーのリファラー認証導入によって、利用者の利便性が向上し、多くの利用があった。	継続	・引き続き、音楽・映像業界の多様化等、時代の変化を踏まえつつ、図書館ならではの資料収集やサービスの展開を検討していく。 ・劣化の著しい資料や利用の少ない資料を中心に所蔵資料の見直しを進め、利用者にとってより魅力的な蔵書構成を目指す。

委員の意見等
長年、視聴覚資料の充実に努め、視聴覚資料の所蔵数は、他自治体の図書館に比べて充実している。ナクソス・ミュージック・ライブラリーの利便性も向上し評価できる。今後も時代の変化をとらえてサービスの提供方法などを工夫しながら、よりよいサービスの提供に努めていただきたい。なお、時期に合った映写会などで集客を図り、図書館への興味を呼び起こすことは有効である。 <協議事項> 現在、図書と視聴覚資料とでは貸出期間が異なるが、それでは同日に借りても返却のために二度足を運ばなければならない。図書であれ、視聴覚資料であれ、貸出期間が同一であれば借用も返却も一度で済むのだが、期間を別にする意味はあるのだろうか。1週間の時差があることの意味が不明である。 ※図書館：視聴覚資料の貸出期間が1週間の理由としては、図書資料に比べて蔵書数が少ないことや、予算に限りがあるため同一資料の購入が難しいことが挙げられます。

基本方針3 情報化社会における市民の情報源となる図書館

(12) 情報発信サービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価	今後の方向性	
ア ホームページや配信メールの活用により、資料及び図書館に関する情報を迅速に利用者に提供します。 イ 紙媒体・電子媒体の資料の整理と活用を図るため、情報検索の手段となるデータベース化を行います。 ウ レファレンスの質問や新聞記事見出しなどのデータベース化を継続し、情報提供の支援を行います。 エ 市民が利用するインターネット端末を整備し、情報収集の機会を提供します。 オ 様々な理由で図書館に来館することが困難な方などに向けて、電子図書館などの非来館型サービスを実施します。	・ ホームページのアクセス数 ・ データベース利用者数 ・ インターネット席利用者数 ・ 電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧貸出数）（再掲）	・ ホームページのアクセス数1,724,206件 ・ データベース利用者数829人（うち国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧利用者110人、国立国会図書館歴史的音源利用者7人） ・ インターネット席利用者数6,876人 ・ 電子書籍（タイトル数11,933点、ログイン数25,318回、閲覧貸出数34,011点）（再掲）	B ・ ホームページを更新し、地区図書館や特集展示のイベントの情報など発信情報を充実させた。 ・ 市民のニーズに応じたデータベースを提供できた。 ・ 非来館型サービスとしてご要望の多かった電子書籍サービスを開始し、順調に利用いただいた。	拡充	・ 既存データベースの活用方法の周知に努める。新たなデータベースの導入検討を行う。 ・ 電子書籍サービスの周知に努め、多くの方に利用してもらえるよう工夫をする。

委員の意見等
ホームページでの情報発信は適宜行われているが、アクセス件数は減っている。コロナ禍の影響と中央図書館の長期休館の影響が大きいものと判断し、令和5年度の数字がノーマルな数字と捉えた。今後も図書館のホームページやSNSを活用してイベント情報や図書館員の仕事などのPRを情報発信していく必要がある。 電子書籍の利用は大幅に増えている。コンテンツも増えているが、コンテンツの更なる充実に努め、利用の拡大を図ってもらいたい。また、インターネットの予約サイトに電子書籍予約のリンクをお願いします。 データベースの利用数が増えており、有効なオンラインデータベースが導入されていると評価できる。国立国会図書館デジタル化資料送信サービスやデータベースの有効性の周知や活用方法の講座などを企画することで、より一層の利用促進につながると思う。 中央図書館も地区図書館もイベントを積極的に広報すべきである。広報は資料の展示になりがちだが、図書館の利用価値について、図書館員が出来る支援や館員が身近な存在であることも広報すべきではないか。実際に図書館員として勤めているスタッフの存在についても分かりやすく伝え、その業務や図書の管理、補修、選書の苦労なども知らせていく必要がある。 来館しない市民に対して、図書館の利用ガイドや学習のヒントとなる情報を発信し、来館を促してもらいたい。

基本方針4 市民の誇りとなる図書館

(13) 地域情報の提供サービス

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価				
		実績	評価		今後の方向性	
ア 郷土資料や行政資料など地域資料の整備と活用を図り、市民及び市政への情報提供を行います。 イ 地域資料のデジタル化を実施し、紙資料の保存と資料閲覧における利便性の向上を図ります。さらに、閲覧を希望する方がいつでも利活用できるよう、デジタル化した資料を著作権に留意しながら、インターネットで提供します。	・地域資料の所蔵資料数 ・地域資料の修繕数 ・「こども府中はかせ」の発行回数 ・地域資料デジタル化点数（令和4年度開始）	・地域資料の所蔵資料数 92,524点 ・地域資料の修繕数 26点 ・こども府中はかせ14号「府中の用水」発行 ・地域資料デジタル化点数116件	B	・難解な地域資料を、児童へ向けて平易な表現にした冊子を作成した ・8か年計画の2年目として地域資料のデジタル化を実行した。	継続	・引き続き、府中市に関連する資料を収集・保管する。 ・幅広い世代の利用者が郷土に関する資料に触れやすい環境を整える。 ・地域資料のデジタル化を進める。

委員の意見等
歴史ある府中市において、図書館が地域資料の収集を積極的に行い、その組織化と提供、保存に努めている点は評価したい。特に8か年計画で進めている地域資料のデジタル化事業は高く評価するとともに、国立国会図書館と連携した取り組みとして他の図書館のモデルになる事業である。 また、子ども向けの「こども府中はかせ」の発行もよい取り組みであった。難解な地域資料を平易な表現にした冊子を作成したことは好ましいことである。子どもだけでなく多くの世代の市民が地域の情報を容易に理解するために必要になり得るであろう。この冊子で提供する情報は既成の地域資料に限らず、実際に市民や団体が活動している知られざる新鮮な情報も取りまとめて提供されることが望ましい。学校との連携でも使える資料であり、今後も継続した発行をお願いしたい。 まもなく完了する『新 府中市史』刊行関連の講演会や地域関連資料の企画展示などを行い、地域の図書館としての役割を果たしてもらいたい。

基本方針4 市民の誇りとなる図書館

(14) ボランティア活動の推進

事業内容	指標	令和5年度実施事業の評価			
		実績	評価	今後の方向性	
ア おはなし会や対面朗読などの講習会を実施し、図書館や学校などで活躍するボランティアを養成します。 イ 図書館におけるボランティア活動を推進し、市民との協働を積極的に行います。	・ボランティアの登録者数 ・読み聞かせ講習会の回数 ・おはなしボランティアステップアップ講座の回数 ・音訳ボランティア養成講座の回数	・ボランティアの登録者数 おはなしボランティア 60人 音訳ボランティア 25人 宅配ボランティア 23人 布絵本作成ボランティア 4人 ・読み聞かせ講習会 6回 延べ116人 ・おはなしボランティアステップアップ講座 8回 延べ375人 ・音訳ボランティア養成講座 8回 延べ73人	B ・市民対象の読み聞かせ講習会の応募方法について、従来の往復はがきに加え、申込み専用フォームからの受付を開始し、利便性の向上に努めた。 ・音訳ボランティアの養成については、音訳フォローアップ講座とデイジー編集講座を行い、令和3年度に加入したボランティアの方の技術向上を図ることができた。 ・宅配ボランティアについて、広報ふちゅうに募集記事を載せて登録者数を増員した。	継続	・引き続き図書館や学校などで活躍するボランティアを養成し、図書館事業における協働についても継続して進めていく。 ・音訳ボランティアについて、新規で募集を行い、担い手を確保する。

委員の意見等
以前から多くのボランティアの皆さんに協力をいただきさまざまなサービスを展開しており、その点は高く評価したい。また、新規ボランティアの募集やスキルの向上に向けた取り組みも適宜行われている。図書館での取り組みと同時にボランティアの皆さんの活動に感謝したい。安上がり行政の温床とせず、ボランティアと協働し、共に成長する図書館をめざしてもらいたい。 また、ボランティア全体の高齢化が進むなかで、これまで培ってきたノウハウや専門性を繋いでいくためには、若い世代のボランティアを増やす方策が必要である。働いていても参加しやすいように、養成の講座や講習会の開講曜日・時間の見直しなども検討してほしい。 対面朗読や読み聞かせ・宅配サービスなどのボランティア養成のために、地区図書館においても養成講座の開催があってもよい。実際に活動する場が地区図書館の場合は養成講座も地域のほうが参加しやすい。 図書館の魅力や図書館の機能をPRするめにボランティアとの協働があってもいい。若い世代への活動の継承や地区図書館でのボランティア講座や子どもとボランティアの交流など様々な活動を行う必要がある。 なお、布絵本作成ボランティアが少ないので手芸サークルなどへの呼びかけや作品展示などで増やすことができれば、“りんごの棚”の増加にもつながると思う。